

9月例会はイラン映画「彼女が消えた浜辺」

10周年特別例会は無事終了しました

7月9日の10周年記念特別例会『ふたたび SWING ME AGAIN』は、218名に会場いただいて無事終了いたしました。関係者の皆様と会員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

節電騒ぎの夏も終わろうとしています。今年は、東日本大震災や福島原発事故の影響もあり、どこかしら自粛や不活発なムードが漂っています。映画館では、いつもの年に増して子ども向けの映画が多く、良い作品と出会う機会も少なかったようです。

まもなく芸術の秋です。映画に出かけたり本を読んで心を温めましょう。

例会のお知らせ

■名称／第56回例会『彼女が消えた浜辺』

■日時／9月16日(金) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～。



■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■会員の受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／彼女が消えた浜辺(英題「ABOUT ELLY」)

■監督・脚本／アスガー・ファルハディ

■出演／ゴルシフテ・ファラハニ、タラネ・アリシュスティ、シャハブ・ホセイニ、メリツラ・ザレイ

■データ／2009年、イラン、116、ドラマ／ヒューマン／ミステリー

■作品紹介／カスピ海の浜辺にバカンスに訪れた男女の中に、セピデー(ゴルシフテ・ファラハニ)が誘ったエリ(タラネ・アリシュスティ)もいた。トラブルに見舞われながらも初日は楽しく過ぎ、2日目に事

件が起きる。海で幼い子どもがおぼれ、何とか助かったものの、エリの姿がこつ然と消えてしまっていたのだ。エリの失踪事件をきっかけに、人間の複雑な内面が暴かれるヒューマンミステリー。

監督は、この作品で2009年のベルリン映画祭最優秀監督賞を受賞したイランの新鋭、アスガー・ファルハディ。ストーリーの充実度もさることながら、男女の関係などについてのイランの文化や価値観も興味深い。

全国映連第40回映画大学参加報告

第40回映画大学が、7月15・16・17日の3日間、広島市で開催されました。全国のシネマクラブ・映画サークルから約140名の参加があり、加古川シネマクラブからは3人の会員が参加しました。

(1) 暑い暑い広島でした

第1講は、サロンシネマ代表取締役の蔵本順子さん。広島市内で「6姉妹館」の劇場をもち、主にアート系と呼ばれる芸術性・文化性の高いものから、全国一斉ロードショー作品まで、幅広い作品を上映されています。また、17年前の第23回映画大学でも第1講の講師だったそうです。

翌日の夜、その新しい劇場「八丁座」で、新藤兼人監督作品『一枚のはがき』を試写。歌舞伎座かと思わせる広いソファの座席やカウンターのような席や畳席まで、とてもすてきな映画館でした。

特別講座「映画スター看板製作再開！—手描き映画看板の実演—」では、手描き看板師佐藤定信さんの実演。1時間で下書きからは想像もつかないような『小川の辺』の東山紀之さんが、きりりとした目線で出来上がり、初めて見る看板作製に驚きと感嘆の声。

また、今年は監督が3人。第2講の『悪人』の李相日監督。第5講に『劔岳 点の記』の木村大作監督。第7講で山田洋次監督。それぞれ個性のある話ぶりで映画への思いを語ってくれました。印象深いのは、なんととっても木村監督の声の大きさ！マイクを使わず1時間半立ったまま、身振り手振りで苦労した劔岳



撮影のお話をしてくださいました。

第3講は、フリーのドキュメンタリーディレクターの**堀川恵子**さん。死刑囚「永山裁判」を語っていただきました。

第4講は、「震災と貧困から日本を考える」として反貧困ネットワーク事務局長の**湯浅誠**さん。今の社会・経済事情をわかりやすくお話くださいました。第6講は、李監督が卒業した日本映画大学学長の**佐藤忠男**さんです。現場の2割は卒業生(特に編集・照明・録音)だということでした。

来年は、明石での開催です。明石シネマクラブ・加古川シネマクラブ・姫路シネマクラブの協力で成功させましょう。(山本和美)

(2) 熱い夏、映画大学イン広島に参加！



私は16日のプログラムに惹かれ、何とか都合をつけて、その日にみであったが参加する事ができました。その私が惹かれた

16日のプログラムは、まず、特別講座として手書き映画看板師の**佐藤定信**さんの実演を兼ねながらの講義から始まり、2講座目に広島出身の**堀川恵子**フリーディレクターの死刑囚永山則夫特集などの制作と命についての深いお話。3講座目はホームレス支援でよく知られている**湯浅誠**さんの貧困と震災を考える講義。4講座目は、『**劔岳 点の記**』で初監督を務めた**木村大作**さんでした。風貌も若々しい監督は、とても72歳とは思えず劔岳撮影時のお話、カメラマンとしてのご自身のお話、とにかく話術が素晴らしく、私はお腹を抱えて笑いました。もちろん会場も笑いの渦でした。

盛りだくさんの講座は、限られた時間ではありましたが、それぞれの講師の人柄、魅力が伝わり、有意義な時間でした。

そしてこの日最後のプログラムが、私がとても楽しみにしていた昨年オープン「**八丁座**」での試写会でした(作品はお楽しみとして知らされていませんでしたが、上映されたのは新藤兼人監督の『**一枚のはがき**』でした)。この劇場は、江戸時代の芝居小屋をイメージした内装でとにかく粋。座席数170のその座席は、多種で、三種類のソファはゆったり仕様。今まで体験したことのない映画館で、映画の世界へすっぽり入らせてくれる空間が演出されています。以前に新聞で、八丁座オープンの記事を読み、行きたかった想いがこの映画大学で叶いました(ちなみに映画大学の初日は、八丁座をオープンされた映画館経営社長の蔵本順子さんでした)。

開催場所が遠いとなかなか参加も難しい映画大学

ですが、1日でも参加できた事は幸せでした。家族にも感謝！！(せん)

10周年記念特別例会回例会の報告

7月9日の10周年記念特別例会では、神戸などを舞台にした『**ふたたび swing me again**』を鑑賞しました。ハンセン病で50年以上もの隔離した生活を送っていた元ジャズ・トランペッターとその孫が、仲間と再会するための旅を描いたロードムービーで、家族のあり方も考えさせられるものでした。



塩屋俊監督の講演

会場には、東京から**塩屋俊**監督をお招きし、この映画の舞台裏や、現在も精力的に活動している映画と映画人の育成について講演いただきました。

300人近くの入場者を期待していましたが、2回目と3回目の入場者が少なかったのは残念でしたが、参加者の意見では、映画も講演会もなかなか好評でした。

参加者数218人(会員112人、一般80人、協賛関係招待者26人)。

運営状況

トホホ………

10周年記念特別例会では、会員以外の一般の入場料収入と講演会経費がほぼ同じ、また、協賛団体からの協賛金収入とPR経費がほぼ同じ、と経費面では通常の例会と同じで、約3万円の赤字でした。

この1年間は、これ以上赤字が大きくならないように、会員数の増加に努めながら、特別例会の一般入場料、寄附金、補助金などの収入をいろいろ探していこうとしています。

会員の皆さんには、映画に興味のありそうな人に、この会のことをクチコミで宣伝いただきますようお願いいたします。(事務委員、宮本)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数163人(7月9日現在)